

## 令和4年度 第8回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

### 1 日時

2022年(令和4年)11月26日(土) 午後1時～午後4時41分

### 2 場所

藤沢市役所本庁舎5階5-1会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 7人

山岡委員長、坂井副委員長、細沼委員、関野委員、新實委員、大場委員、樋口委員

#### (2) 中間報告会参加団体 9事業・13団体

##### ①スタート支援コース

・すまいるらぼ ・特定非営利活動法人ぐるんとびー

##### ②ステップアップ支援コース

・NPO 法人とことこ ・NPO 法人紙芝居 Project ・Rankup

##### ③協働コース

・関内イノベーションイニシアティブ株式会社／フジマニパブリッシング株式会社  
・特定非営利活動法人湘南食育ラボ／特定非営利活動法人 laule'a  
・特定非営利活動法人自立生活サポートセンターもやい／地域共生社会推進室  
・フジサワキカク広報／広報シティプロモーション課

#### (3) 市側 6人

平井部長、日原参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方専任主査、関口

#### (4) 伴走支援者 治田氏、高瀬氏

#### (5) 協働コーディネーター 手塚氏、堀氏

### 4 議題

#### (1) スタート支援コース・ステップアップ支援コース中間報告会

#### (2) 協働コース中間報告会

## 5 開催概要

### 開会

○事務局の平井部長より冒頭に挨拶が行われた。

(山岡委員長) それでは、ただいまから第8回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

本日は、令和4年度ミライカナエル活動サポート事業の中間報告会を行います。

初めに、委員会の成立要件につきまして、本日は過半数の委員にご出席いただいておりますので、藤沢市市民活動推進条例施行規則に基づき委員会が成立していることをご報告させていただきます。

なお、本委員会は原則公開となっております。

記録のため会議の状況を録音させていただきますので、ご了承ください。

本日の進行について、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、進行及び委員自己紹介等について案内が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

#### (1) スタート支援コース・ステップアップ支援コース中間報告会

##### ①すまいるらぼ

(山岡委員長) それでは、早速、中間報告会に移ってまいります。

スタート支援コース、すまいるらぼさん、「拠点カルチャーすまいるらぼ事業」についての発表をお願いいたします。

(すまいるらぼ) 皆様、こんにちは。「拠点カルチャーすまいるらぼ事業」の発表をさせていただきます、すまいるらぼの佐藤、杉本、山本です。よろしくお願いいたします。

私たちの事業の概要をもう一度おさらいという感じですが、シニア世代が心身ともに健康で自立し、生き生きと暮らす環境づくりに貢献する。寿命100年時代を迎え、社会性を持ったシニアが生き生きと、そして自分の好きなことをやって、できれば誰かのお役に立つ、そんなことを目的としております。

事業内容としては、①シニアダンス事業【FOREVER CHANCE】、②スキヤキ体操サポーター派遣事業【SMILEY】、③拠点カルチャー事業【すまいるらぼ】の3つがあります。このたびは③の拠点カルチャー事業として申請させていただきました。

登録人数は、申請時は22名でしたが、やはりシニアはいろいろなことがありまして、

けがや病気で2名登録ができなくなって、現在20名となっております。

私たちすまいるらぼの3つの講座についてお話をさせていただきます。

最初に、3つの事業の話をしました。申請して、さあ頑張っすまいるらぼの講座をやっいてこうと意気込みましたが、実はすまいるらぼの拠点は①、②のシニアダンス、そしてSMILEYの派遣を支えるための拠点だったということ。私たちはこの半年間やっいて感じているというのが正直なところ。申請時にいろいろなことをやりたいと出っいていましたが、2回の伴走支援講座、そして緒方さんをはじめ市民活動推進課の皆さんのアドバイスをいっいて、申請時に出した講座をちよっつと整理してみました。そして、大きく3つに分けました。

①は、私たちの活動のもととなっているスキヤキ体操講座。②はIT講座。このたび、申請時にいっいていただいた補助金の一番大きな購入物はパソコンでした。③、④となっていますが、これは両方ともスキルシェアの講座で、大きく3つに分けております。

スキヤキ体操のコンセプトが「知る→わかる→できる」。申請時はここが「教える」になっていっいていましたが、「教える」ではなく「わかちあう」という言葉のほうが適切かなと思っいて、それを広めていく方法を考えました。

シニアというのは結構わがままで、1階のダンスから5階の拠点まで移動する、靴を脱ぐ、それがおっくうという話があったり、わざわざというのが嫌だということがあっいたので、シニアダンスのレッスンの前と後の時間を利用してワンポイントのレッスンをしました。

スキヤキ体操講座のチラシをつくって募集しましたが、上の写真ではここにいる山本さんがリードをとって、ダンスのレッスンの前に先生のかわりに実際に皆さんと一緒にサポートして講座をやるという役割をやってみました。いろいろアドバイスをもらったりして合格をもらっいたので、これから自信を持って出講できるようになったと思っいます。

また、下の写真は、私たちブルーのTシャツを着ているすまいるらぼのメンバーと、黄色いTシャツを着ている子どもたちが前にいっいますが、先日、ねんりんピックの開会式が善行でありました。そこでキッズとシニアのコラボのダンスでオープニングを盛り上げようという企画があっりました。その練習のときにも、一番最初はスキヤキ体操から始めるという感じでやっていきました。

②はIT動画講座です。伴走支援講座のときに、市内にシニアのITが得意なサークルがあっるので、そこから講師を派遣していっいてくださるよういっいてはどうかというアドバイ

スをいただいて、実際にその団体さんへ行ってみたら、その団体さんは「ITと一緒に学ぶ仲間とか、ホームページの作成依頼とか、そういうものだったら受けられるけれども、講師の派遣はしていません」と断られてしまったんです。

それで、真ん中の写真の眼鏡をかけた手前の女性は私の娘ですが、娘にIT講座をやってくれないかとお願いしました。ブルーのTシャツを着ているシニアの固まりがいますが、あのメンバーが25人でねんりんピックのオープニングでダンスをしました。そのメンバーの中から、私たちが踊っている姿をYouTubeで配信したいという声が出たんです。こうやって楽しく生き生きとダンスをしている私たちを見てもらって仲間をふやしたいからYouTube動画をつくりたいというリクエストがあったので、急遽IT動画講座を企画しました。

赤いトレーナーの方はダンスの先生ですが、ダンスの先生とかシニアダンスのスタッフさんを巻き込んで、私たち役員だけでなく、一緒にともに動く仲間をふやしていこうという形でやってみました。

③はスキルシェアのものです。スキルシェアには2種類あります。1種類は、私たちの仲間のスキルシェア。仲間の中にヨガのインストラクターの方がいるので、ダンスが終わった後にクールダウンということで、1階から5階まで上がって、みんなでヨガを楽しみました。

④は外部講師のスキルシェアとお茶会を企画しました。講師の方は、大体30代後半から40代ぐらいの方ですが、既にいろいろなところで講師をなさっている方たちをお願いして、その方が持っているスキルをシェアしながらお茶会をするというのを企画してみました。1回目、2回目、3回目と、順を追って、気づいていただけるかと思いますが、参加しているメンバーがふえているんです。

一番右の写真の真ん中にいらっしゃる白いお洋服の方がダンスのインストラクターの方で、その方が自分のクラスの生徒さんを連れて参加してくれました。なかなかシニアの拠点に来ることがない40代の方たちが、「シニアは元気で楽しそうでいいですね。私たち、何かお手伝いできることはありませんか。一緒にやっていきたいんですけど」という言葉をいただけて、私たちはとてもうれしく思っています。

今後の課題ですが、私たちは採択団体として広報ふじさわに掲載していただけることになったので、来年2月と3月にシニアダンスとスキヤキ体操のご案内をしたいと思っています。そして、市内のメンバーをふやしたいので、市民センターにチラシを置かせていた

だく。そして、会員をふやすということは、シニアのダンスメンバーをふやすということなので、そこに特化してやっていきたいと思います。

今回、このパワーポイントも、買わせていただいたパソコンで作りました。まだまだこれを上手に使いこなすことができませんが、これからもいろいろなことにチャレンジしていきたいと思っております。ありがとうございました。（拍手）

（山岡委員長）すまいるらぼさん、ありがとうございました。

それでは、続けて発表となります団体さんの入れ替えをお願いいたします。

（団体入れ替え）

## ②特定非営利活動法人ぐるんとびー

（山岡委員長）次は、同じくスタート支援コース、特定非営利活動法人ぐるんとびーさん。

「産前産後ケア事業 “No！ 孤育て”」について、発表をお願いいたします。

（特定非営利活動法人ぐるんとびー）それでは、発表を始めさせていただきます。特定非営利活動法人ぐるんとびーの南悠です。よろしくお願いいたします。

まず初めに、今回の事業のビジョンを再度共有させていただきます。上記のように、「孤育て」をなくし、もう一人産み育てたいと思える地域、未来をつくりたいと思い、現在、活動を実施しております。

実際の活動の雰囲気や様子を皆さんにも感じていただきたく、今回、短い動画にしてみましたので、共有させてください。

このように、実際に参加してくださるお母さんたちは、本当に皆さんどこかしらに痛みがあったり、不調を抱えている方がほとんどなので、体に負担をかけないような動き方を伝えながら、時にはこの動画のようにだっこしながら、だっこでできる運動も一緒に行っております。

実際に参加してくださったママたちからの声です。「コロナ禍で赤ちゃんと一緒に出かけられる場所が少なく家に閉じこもりがちで・・・とにかく誰か大人と喋りたくて今日ここに来ました」。もう一人の方からは、「産後、骨盤周りの痛みが強く、立つことができなかった。整体に通って今は落ち着いてきたが、もっと筋力をつけないとと言われて自分の身体のメンテナンスを目的に参加しました」。

実際に産後のヨガに参加してくださった、紫のヨガマットのママですが、「産後は孤独

になりやすいので・・・ 近くでこういった活動に参加できるのがとてもありがたいです!!」というお言葉をいただいております。もう一人、骨盤が痛くて立つこともできなかったと言っていたお母さん、赤ちゃんと一緒に写っている写真のお母さんですが、来年の4月に職場復帰を目指していて、今は子育てだけで毎日疲れてしまって、体力もなくへとへとなので、育休中に体をしっかり整えて、体力を戻して職場復帰をしたいという希望があって、参加して下さっております。

参加者の割合です。藤沢市役所のご協力のもと、10月10日の広報ふじさわに掲載していただき、広報ふじさわの反響がとても大きく、藤沢市のほぼ全域から参加して下さっております。

参加人数としては、報告書に上げさせていただいた後に、お子さんの体調不良によりキャンセルが出たため、お母さんの参加が25組、お子さんを含めると約50名の方に、11月末現在で参加していただいております。

お子さんの年齢は2カ月から6カ月が17組、7カ月から1歳が5組、3歳以上が3組、参加者の約89%が子連れで参加されております。

参加の目的としては、産後、子連れで運動できる場所はコロナ禍でとても少なく、産後に運動する機会をつくりたい、あとは家事、育児の中で少しでも気分転換、リフレッシュをしたいと、皆さん子連れで参加して下さっております。

事業の進捗です。提出させていただいた事業計画書のスケジュールに基づき、このように11月末現在ではスケジュールどおりに事業を実施しております。

実際に事業を進めていって見えてきた課題として、大きく分けて2つあります。

①営業・広報になかなか時間を割けていない。こちらの課題に関しては次のスライドで対応策を挙げさせていただきます。

②質の向上のために安定的なボランティアなどのサポートが必要と感じております。子連れで参加しても、ママたちが安心して自分の体と心に向き合う時間を確保していきたいと思っております。子連れ参加オーケーにしていますが、どうしても泣いてしまったり、ずっと泣き続けてしまったりすると、お母さんたちは自分のために時間をつくって参加して下さっていますが、なかなか参加できる時間が少なくなってしまうので、そういった環境ももっと整えていく必要があると感じております。

対応策です。事業実施時間内での営業・広報時間の確保のために、毎週金曜日に実施している活動日を、月内で、例えば第2金曜日を土日クラスへ変更することで、実施の回数

の変更はなく、参加日が平日または土日を選べることによって、参加者する母親たちの選択肢がふえるのではないかと思います。

そして、土日に開催することによって、家族や周りの人に預けて、ママ自身が一人でじっくりと参加できる機会にもなりますし、子育てをしていく中で、他人の力をかりることや、助けてとヘルプを出すこともすごく必要だと感じています。土日に行きたいとお願いすることで、これから続いていく子育ての中でも「助けて」と言えるような練習の機会にもなると感じております。

土日に事業をスライドさせることで、実際の活動時間の中で営業・広報活動の強化を行っていきたいと思っております。

最後に、この事業を通して藤沢市のお母さんたちが妊娠、出産、育児をもっともっと楽しんで、笑顔でいけるように、これからも活動していきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

（山岡委員長）ぐるんとびーさん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

（団体入れ替え）

### ③NPO法人とことこ

（山岡委員長）次は、ステップアップ支援コース、NPO法人とことこさんです。「『Wa project』～ツナグ～」について、発表をお願いいたします。

（NPO法人とことこ）NPO法人とことこ、濱田です。よろしくお願いします。

私たちは、「Wa project」というロゴマークと、とことこ、笑顔の環をつなげていきましょうというロゴマークを掲げながら活動しています。「『Wa project』～ツナグ～」ということで、特にことしは災害にも強い地域づくりを意識して、多くの団体や企業さんと協力して活動しております。

定期開催しているのは5日間ありまして、「とことこ café」と「藤が谷親子の縁側」は、毎月2回、鵜沼橋市民の家、藤が谷市民の家を使った集いの場です。それから、「あおぞらおはなしかい」は毎月第一土曜日に橋公園で開催しています。それ以外にも、「出張おはなしかい」の機会をいただきまして、この3カ月間で6回、講演してきました。それ以外にコラボ企画などをやっています。後ろにチラシなどの成果物を載せさせていただいて

いますので、よろしければ後ほどごらんいただければと思います。

これまでの結果として、おかげさまでリピーターがふえてきました。1つのイベントに参加した人が、またお友達を連れて、ご家族を連れてという形で、満足度の高いイベントもできるようになってきています。

フェイスブックグループ「鵜沼を愛する会 Wa project」を昨年立ち上げました。きのう確認したら、登録者が1315名になっておりました。こちらで地域の魅力や課題など、情報交換の場をつくらせていただいています。

それ以外にも、「湘南SDGsネットワーク」や「鵜沼公民館のサークル交換会」、「くげぬま子育て応援メッセ」の実行委員会などにもかかわることで、さらに活動の幅が広がってきました。今年度だけでも50以上の企業・団体・商店とつながることができています。

これまでの事業を実施しての課題です。リピート率は高いんですけども、新規の参加者さんの拡大が、やはり課題になっています。課題に対する対応策として、今度、広報紙に載せていただいたり、タウンニュース、毎日新聞の鵜沼地区の「鵜まい」に記事の掲載依頼をいただいて、載せさせていただきました。あとは、小さいところですが、クチコミを活用するためにタグづけ投稿などもお願いするようにしています。

補助事業、今後の内容として、こちらはもともと補助事業の中に入っていたものではないのですが、お声かけいただきまして、神奈川県主催の「パートナーシップミーティング」、防災活動の事例発表もさせていただくことになりました。それから「シニア向け防犯講座」は、消費生活センターとシニアのやすらぎ荘の方に落語を披露していただくようなつながりをつくっています。「あんどうりすさん 防災のおはなし」、なぎさ荘の「藤沢の昔話 おはなしかい」、3月には防災イベントも予定しています。

成果物として、チラシ・ポスター以外にTシャツをつくらせていただきました。「Wa」を背中にしょって、前にはとことこマークが入っております。

チラシを見ていくと、3-4ページは「夏休み親子企画 地震体験 消防署見学」を開催しました。おかげさまでキャンセル待ちが出るくらいになりました。総勢100名で楽しんでいただくことができました。企業から協賛のお土産などもいただきまして、防災を考えるすごくいいきっかけになったのではないかと思います。

9月に行った「くげぬま まち歩き」も、ただの歴史探訪ではなく、防災を意識して、川と海に囲まれたこの地域だからこそ、氾濫を繰り返してきた境川や蓮池とか、いろいろ



ありましたので、現在の水害対策はどんなふうになっているかも意識して、地図を見ながら歩いてきました。このときの参加者さんとのつながりができまして、今後のイベントのゲスト講師として出ていただいたりというつながりもできました。

次のページの「ハロウィンパレード」は本鵜沼駅前商店街さんのご協力で開催しました。駅前には道がとても狭いので、親子で気をつけて歩いていただくために、まず防犯指導員さんから説明を受けて、こども110番のステッカーなどもご案内して、商店街の人たちと顔見知りになって、「もし何か困ったことがあったら、ここに入るといいよ」という案内もしております。こちらであつという間に定員になってしまいました。

それから、「アンチエイジングと介護のはなし」というイベントをさせていただきました。こちらのゲストは映画監督の谷光章さん。映画のお話も、皆さんとても興味を持ってくださって、今後こちらの上映会をやってほしいという次のイベントを期待する声もたくさん上がっております。

いろいろなイベントを行ってきましたが、10月21日にはささえの会さんから声をかけていただいて、出張して紙芝居を読んだりしてきました。

ビーチクリーンイベントも毎月1回ペースでやっていますが、湘南海上保安署さんに呼んでいただいて、海洋汚染の話聞いて、湘南海上保安署主催のイベントなどもできたらいいなと来年度の企画も考えております。

これは書いていないのですが、11月23日には「くげぬま子育て応援メッセ」に参加してまいりました。他団体や個人とのつながりがだんだん大きくなっています。

もう一つ、書いていないのですが、12月3日、鵜沼小学校の「くげっこまつり」で体育館に呼ばれていまして、こちらでは紙芝居 Project の「江島縁起」を読んでこようと思っております。

これからも地域をつなげたり、皆さんに笑顔になっていただけるような活動をたくさんできればと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

(山岡委員長) とことこさん、ありがとうございました。

それでは、団体さんの入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

#### ④NPO法人紙芝居 Project

(山岡委員長) 次は、同じくステップアップ支援コース、NPO法人紙芝居 Project さんです。「紙芝居で育む子どもたちの未来と郷土愛」について、発表をお願いいたします。

(NPO法人紙芝居 Project) 皆様、よろしく願いいたします。

マイクを使うとさすがに声が大き過ぎますので、地声で、この美しい声を聞いていただきながらやっていきたいと思えます。

我々の団体は、昨年度、スタート支援コースのほうで「江島縁起」という紙芝居、藤沢市の民話を子どもたちに講演してまいりました。そのときの課題、読み手をふやさなければ、多くの子どもたちにこれを知ってもらうことはできないだろうといったことで、今回、ステップアップ支援コースにおいては読み手を育成する講座ということで、今回、事業を進めさせていただきました。

この事業を進めるに当たって最も課題とされていたところが、認知度がどれくらいあるのか。講座をやりますといったときに、どれくらい参加していただけるのか。そういったところが最初の課題でありました。

そこで、チラシを配るといった中において、市民自治推進課の方にご協力いただき、また社会福祉協議会の方にもご協力いただき、800枚のチラシを配らせていただきました。そのほかにも、広報ふじさわにも掲載させていただき、タウンニュース、レディオ湘南、さまざまなツールを使って告知させていただいた中で、プレゼンの際に私は自信満々に言わせていただいたように、予想どおりの満員御礼といった形で、参加者10名が集まることができました。

ただ10名が集まったわけではなく、いわゆる市外に住まれていて、藤沢市に就労に来ている方もからも2名、お問い合わせをいただきました。そのほかにも、実際にはもう5名、参加したいということで、予想以上の問い合わせがありました。年内にもう一回やりますので、2回目も10名集まるような形で考えております。

事業計画書のほうでは8名で立てていましたが、思いのほか大きい会場がとれましたので、今回は10名という形で進めさせていただいて、感染予防にも配慮しながら実際の講座を進めております。

実際の参加者の方たちのお声は、大変待ち望んでいた講座といった形のお声が全員でございました。中でも、長い間、紙芝居に取り組まれていた70代の方のお声がありました。「藤沢市でこういったことを開講した記憶がない。藤沢でやってくれて本当にありがとう。」

あなたの活動を応援するわ」という形で、藤沢市内においては絵本の読み聞かせの講座はあっても、紙芝居に特化した講座がなかったということが明確になった次第でございます。

そのほかにも、やってみたいと思ったけれども、なかなか一歩踏み出すことができなかったのが、今回の講座で一歩踏み出すことができ大変うれしいといったお声が上がっております。

10名参加していただきまして、10名全員が「非常によかった」、満足度100%という結果が出ておりますし、今後の展開の希望でもありました、この方たちが、この先、保育園等のボランティア活動をしてくれるのかどうかという点についてのアンケートにおいても、「そういったことがあればぜひ参加したい」といった方が10名中7名。「既にやっている」という方が3名いらっしゃいまして、10名中10名が「今後そういったことがあればぜひ参加したい」という答えが出ております。

また、「こういった勉強会を定期的開催してほしい」というお声そのときに上がりました。そういったことがあればぜひ参加していく、期待されているというお声があったのが、今回の講座でございました。

報告書にも書かせていただいたように、今後、紙芝居講座だけでなく、講演活動、勉強会等の活動を展開していくことが、こういった参加者の方たちの意識を継続させていくという点でも重要ですし、活動を広げていく、人数をふやしていくことが重要だという課題については、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。それだけでなく、読むだけではない楽しさも新たに発見することの重要性も感じているところでございます。

私からの報告は以上となります。ちょっと早いですが、終わりになります。ありがとうございました。（拍手）

(山岡委員長) 紙芝居 Project さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

(団体入れ替え)

## ⑤Rankup

(山岡委員長) 次も同じくステップアップ支援コースで、Rankup さんです。「貧困世帯に向けた子ども支援事業」について、発表をお願いいたします。

(Rankup) 皆さん、こんにちは。Rankup 代表の佐々木俊と申します。本日はよろしくお

願いたします。

私たちは、笑顔あふれる子どもが輝く未来の実現に向けて活動しています。まず最初に、この事業の詳細について簡単に説明させていただきます。

私たちは、3つの柱を軸に活動しています。①絆市、②絆 BOX、③絆食堂です。この3つを通じて貧困世帯への支援、そして地域のよりどころを目指して頑張っていきたいと思っています。

まず最初に、絆市です。私たちが栽培した野菜を販売し、その売上金の一部を貧困世帯や子ども支援団体等に提供するといったものです。

続いては絆 BOX です。地域の方から賞味期限間近の食料などの物資を集め、先ほどの支援団体に提供するといったものです。

最後に絆食堂です。毎月第1、第3土曜日に子ども無料の食事提供を行っております。貧困世帯の支援だけでなく、地域のよりどころ、老若男女を問わず誰もがこの食堂に来てほっとするような居場所を提供したいと考えております。

続いては、これまでの活動についてお話しさせていただきます。

8月です。絆市を2回開催することができました。絆食堂は、諸事情により8月6日の1回だけの開催になりましたが、15名の方に来ていただくことができました。

絆 BOX です。このときは、藤沢近隣の子ども支援を行っているカトリック教会に物資を届けることができました。

そして、児童養護施設への農業体験は昨年から続いておりまして、ことしもサツマイモを5月に植えつけ、8月にはその除草を子どもたちと一緒に行うことができました。

次に、野菜提供です。こちらも昨年同様に藤沢の農家さんで余ってしまった野菜等を、フードロスの削減を目的に、子ども食堂やその他の団体等に提供しています。

続いて、9月です。9月はちょうど夏野菜が終わる時期もありまして、絆市は1回しか開催することができませんでしたが、多くのお客様に来ていただくことができました。

絆食堂は予定どおり2回、実施することができました。特に17日の回は、他団体のNPO法人とことこ様とのコラボとして、紙芝居をしてくださいました。子どもだけでなく、親御さんにもとても好評で、また実施したいというお声がたくさんありました。

先ほど紹介させていただいた児童養護施設の農業体験の後、絆市の売上金の一部を使いまして、ブドウ狩りという体験のプレゼントを行うことができました。

そして、9月の児童養護施設への農業体験は、ちょうど植えつけシーズンでもありまし

て、ジャガイモを2種類、子どもたちと一緒に植えることができました。間もなく収穫を迎えるので、今から楽しみにしています。

9月も野菜提供、絆BOXの物資提供も引き続き継続して行うことができました。

続いて10月です。10月はハロウィンシーズンということもあり、絆食堂を3回、実施することができました。特に30日のハロウィンイベントに関しては、仮装してくれた方々と一緒にボードゲームを行ったり、あとは食事のときに地域の方のご協力もありまして、ウクレレの演奏などをしてくださり、懐メロとか、子どもが知っている曲等を演奏してくださり、とても和やかな雰囲気で終えることができました。

その宣伝に当たりまして、藤沢近隣の住宅へ、600部のチラシを配布することができました。ご縁もあって、江ノ電の藤沢駅や石上駅にもチラシを掲示することができました。これを境に、より多くの人に知ってもらえたらいいかなと思っております。

児童養護施設への農業体験、野菜提供、そして絆BOXの物資提供も引き続き継続しております。

11月です。予定どおりに2回、絆食堂を実施することができました。

児童養護施設への農業体験のとき、約6カ月間、栽培したサツマイモを収穫することができました。昨年と比べ収量は少なかったのですが、大きなサツマイモがとれて、子どもたちがとても喜んでいたので印象的でした。

その後、絆市の売上金の一部を使いまして、キウイフルーツの収穫体験も行うことができたので、子どもたちにとってはいい経験になったのではないのでしょうか。

野菜提供、絆BOXの物資提供も、引き続き継続することができました。

これまでの活動ですが、一番下の「その他の団体収入」に関して、私たちは畑を中心に活動しています。そこで得た野菜を販売したり、ワークショップとかのイベントの収入がこの団体収入となります。

続いて、これまで実施してきて感じた課題とその対策について、お話しさせていただきます。

一番の課題は、何といたっても絆食堂への集客だと感じています。現在、私たちは、藤沢駅イトーヨーカドー前のエスタ地下の会場を借りて実施しています。やはり地下ということもありまして、なかなか人通りが少ないのが現状であります。その改善策としては、チラシの改善でより多くの人に私たちの活動を知ってもらうことが必要と感じました。それに当たって、左側が改善前、そして右側が改善後に当たります。多くの方々の意見を聞き

まして、写真でもわかるとおり、写真をアピールし、なるべくコメントをシンプルにしたものが完成後のチラシとなっております。今後はこのチラシを武器に、しっかりとアピールしていきたいと感じています。

次に、ホームページの作成、タウンニュース等への掲載依頼です。やはり多くの方々に知ってもらふ必要があると感じています。このような媒体を使うことによって、しっかりとアピールできたらなと思っております。

最後に、他団体や地域の方とのコラボイベントです。先ほどのとことこさんの紙芝居や、地域の方のウクレレ演奏のように、私たちだけでなく、地域の団体や人々と一緒に絆食堂を盛り上げ、さらに地域活性化につなげていきたいと感じています。

最後ですが、コストの削減です。畑の農業の費用とか、絆食堂の食材がかかっており、今年度の予定は60万円と見込んでおります。

この対策としては、絆食堂で使う材料、例えばお米や調味料などをSNS、チラシ等を含めて募集したいと思っています。

続いて、サイトを通じての寄付金ですが、コストを削減するための手段というよりは、コストがかかるのは仕方ないことでもありますので、しっかりとそれを補うための収入部分を、このようなサイトを通じて寄付金を募ろうと考えています。

最後に、自団体の堆肥づくりです。去年もことしも堆肥を購入していました。これを削減するために、例えば野菜の皮とか自然の落ち葉等を使って自分たちの堆肥をつくって削減に努めていきたいと思えます。

以上で終わりにしたいと思えます。どうもありがとうございました。（拍手）

（山岡委員長）Rankupさん、ご発表ありがとうございました。

以上で、スタート支援コース・ステップアップ支援コースの全団体の報告が終了いたしました。

ここで一旦、事務局にマイクをお返しいたします。

（事務局）報告団体の皆様、山岡委員長、ありがとうございました。

ここで、伴走支援講座講師の治田様より、コメントを頂戴したいと思います。

（伴走支援者）皆さん、発表お疲れさまでした。この発表は結構ドキドキすると思えます。何を発表したらいいのか、すごく悩みながら資料をつくってくださったり、お話しくださったりしたかなと思えました。ここから、限られた時間ですけれども、少しコメントさせていただきます。

まず1団体目、すまいるらぼさんです。

助成金で買ったパソコンを使いこなして何とか資料もつくられてということで、お疲れさまでした。ちょっと散漫になっていた事業を幾つか整理したということで、ご自身たちがやるのが少し明確になったのかなと思います。

一方で、これは皆さんに共通するんですけども、ご発表の中で、例えば何人参加して、参加費を幾らいただいてというようなものがないと、聞いているほうはさっぱりわからない。「これまでこうだったけれども、こういうふうになりました」とか「今までは会費を取っていなかったけれども、こうなりました」とか、そういった皆さんの変化を聞きたいと思うんです。変化があればいいのかといったら全てがそうではないと思いますが、そこはぜひもう少しアピールされたらよかったのかなと思います。

今の助成金の使い方という、いただいている金額から謝金を払えているという状況ではありますけれども、どういう会員がいて、ちゃんと会費をいただけるのか。要は、参加費だけでない会費をどのようにいただけるのかというところを考えていけるのかどうかというのを、後半で少し考えていただけたらなと思っております。

2番目、NPO法人ぐるんとびーさん。

いろいろ悩みながらやっていたけれども、結果的には、今ちゃんと人が集まってきているし、ご自身たちが拠点としている場所以外のところからもお客さんが来ているということで、よかったなと思います。

発表の中でも、どこが拠点かというのが一言もなかったですね。藤沢のことだからみんなわかっていると思うかもしれないけれども、例えば「駅からこれぐらい遠いんだけど来てもらっています」とか「ここでやっていることで近くの人がいっぱい来ているんです」とか、その辺がわからないと、地区の問題なのか、産前産後ケアがないことの問題なのか、そういうことがわからないので、そのあたりをもう少しブラッシュアップしていただけたらいいかなと思いました。

発表資料は、多分ご自身たちで撮った写真を活用されていて、すごくわかりやすかったと思います。ああいうのも1つの得意わざとして使いこなしていただけたらなと思います。

次はステップアップ支援コースですけども、この3団体は、少し厳しめにいこうと思います。というのは、去年1年間、その前も、皆さんいろいろ活動されてきている中でのことなので。

残念だったのは、2団体はプレゼン資料がなかった。例えば紙芝居だったら紙芝居を持ってくるとか、あるじゃないですか。そういう見せ方もNPOにとってはすごく大事なことでと思います。

とことこさんについては、いろいろな資料がついていたので、それで補完はできると思いますけれども、参加している人たちの笑顔だったり、特に工夫しているイベントのアピールポイントですね。今回の場合は防災と言っていて、防災というのは自治会・町内会で、いろいろなイベントをやってもなかなか来ないものになっていて、その中でもとことこさんがやったからこそ来ている、満員御礼みたいな話も何回かあったかと思いますが、なぜそれができているのか、本当にできているのか、それも見せるようにしないとなど思って聞いておりました。

とことこさんについては、課題としては、参加者はそこそこ確保しているけれども、リピート率が高いということは、新しい人たちが来ないということ。そこは何なのかというのをもうちょっと考えていくべきだなと思いました。

あと、客観的に感じたのは、イベントをすることが目的になっていやしないだろうか。参加した人がどう変化するか、変化してほしいのか、もしくは会員になってほしいのか、一緒に活動してほしいのか。そのためにイベントをやっているならいいんですけども、何やらすごくイベントだけをやっている団体みたいに見えてしまうところがある。もしそうでないならば、その部分の整理をされたらいいかなと思いました。

紙芝居 Project さんについては、ちゃんと当初の目的が達成できてよかったですね。10名よりもっと参加いただいた。次の発表のときには、ぜひその10名がどういう属性の人だったのかを知りたいなと思っています。年齢層だったり、男性なのか女性なのかだったり、今までいろいろなことをやったけれどもこれに行き着いたとか、紙芝居にどれぐらいの熱意を持っていて、次もやろうとしているのか、もう少しビジュアルで、言葉でもご説明いただくことが大事かなと思いました。

そして、こちらもちろんと会費というか、参加費を取ってやっていらっしゃるんですが、もしかしたら、この価格設定ももうちょっと高くてもいいのかもしれない。そして、終わった人の活躍の場が欲しいというのはチャンスで、NPOの会員になってもらった上で活動してもらおう。会員にならないと活動できないみたいな仕組みもできるかもしれない。そのあたりも、後半戦ではぜひ検討いただきたいなと思いました。

最後に Rankup さんです。イベントは、コロナ禍で苦戦されている中でも頑張ってお



やりになったのかなとお見受けいたしました。Rankupさんも活動を重ねていらっしゃるので、参加者がどう変化したかという報告がもっと欲しいなと思いました。佐々木さんだけが頑張っているのか、いやいや違いますよ、応援団もふえているんですよみたいなこととか。その広がりがないと、税金を50万円かけてやっても、次にどうなるのかが見えないと、皆さんからの協力というか、サポートも得られないのかなと思いました。

最後に申し上げますが、5団体とも、参加していただいた方にアンケートをしっかりとっていただきたいと思います。そのアンケートの項目の立て方も皆さんの力量が反映されますので、ぜひこちらを活用していただいて、ブラッシュアップしていただきたいなと思います。せっかく来ているお客さんに何も聞かないのはもったいないよねというところですよ。

そして、ステップアップ支援コースの方に申し上げたいんですが、今回、ビジョン・ミッション・ロジックモデルを使わせていただいて、皆さんのこの先を見ろということをやったけれども、今回のプレゼンにはほとんど反映されていなかったのがとても残念です。そこをもう少し意識して、次のプレゼンには臨んでいただきたいです。

それから、最後に褒めさせていただきたいんですが、今回、この3団体さんは、皆さん横のつながりをうまく使われて、それぞれの団体のよさを生かしているなということも、発表の中ではなかったんですが、実はあるんですね。そのあたりも、皆さんからもうまく表現いただけるといいのかなと思いました。

以上です。

(事務局) 治田さん、ありがとうございます。今後も団体のご支援をよろしく願いいたします。

では、ここから、両コース団体及び市民活動推進委員会による意見交換に移りたいと思います。

本日の趣旨は、事業の成果がきちんと出るように、達成できるようにするための意見交換ですので、団体の皆様同士の意見交換もぜひよろしく願いいたします。

時間はおおむね30分間として、この時計で2時35分までを予定しております。結構しっかり時間をとっていますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。

テーブルに分かれまして、それぞれのテーブルの司会進行は、委員長、副委員長にお願いいたします。速記の方もテーブルに入ってください。伴走支援者のお二人も、よろしければそれぞれ入っていただければと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## スタート支援コース・ステップアップ支援コース

### グループディスカッション

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(事務局) そろそろお時間になりましたので、意見交換の時間を終了させていただいてよろしいでしょうか。

最後に、山岡委員長、坂井副委員長からご講評をいただければと思います。

初めに、山岡委員長、お願いいたします。

(山岡委員長) 貴重な意見交換をさせていただきましてありがとうございます。グループが分かれていたので、私はスタート支援コースについて、総括ということではありませんが、こんな話をしてこんなことを感じましたということを少し申し上げさせていただきたいと思います。

スタート支援は、はじめばかりですから当然課題があるんですね。どちらの団体にもあります。課題があるということがすごくよくわかったし、でもそれはスタートしたから出てきている課題だということもわかりました。たとえばすまいるらぼさんは、先ほど「踏み込んだじゃった」とおっしゃっていましたが、踏み込んだじゃたら見えちゃった、「うわっ」みたいな感じ。でも、それがいいんじゃないかなと僕は思うんです。

逆に、課題が見えない中で、今までどおり楽しくやっていくということもあるかもしれませんが、でもその課題を克服したときに、また違う世界が見えてくるかもしれない。そういうことが、今回、皆さんの中では既にわかっておられることかもしれませんが、我々も含めて確認できた。答えは当然今はまだ出ていませんが、何とかしていかなくちゃいけないよねということが確認できたのはすごくよかったなと思います。この事業はまだ残り数カ月ありますので、ぜひその中でしっかり課題に向き合っていただきたいと思います。

ぐるんとびーさんに関しても、同じように課題が見えている。ただ、その課題の性質は全然違う。すまいるらぼさんの場合は、自分たちがどこを目指すかというところが大きな課題になっていますが、ぐるんとびーさんの場合は既にニーズもあるし、たくさん人が集まってくる。しかし、当然それを全部受け入れていくわけにはいかない。そういう中でどういうふうに進めていくか。全部自分たちでできるわけではない。そういう課題です。そ

れもどうするか考えていかなければいけないことです。

「こういうことが地域の中にきっと必要だから、まずやってみよう」ということで活動が始まったと思いますが、それを始めてみたら、「何とこんなことがあったのか」ということだと思います。ぐるんとびーさんの場合は、多分そこはスタート支援の枠内でおさまるようなことではないような気もしますが、皆さんの長期的な活動の中で、これはミライチャンネルですから、藤沢の未来をよくしていくためにどうしたらいいか、大変だと思いますが、ぜひ悩んで考えて、活動を進めていただけるといいなと思います。

私としては、こういう委員会という形でご縁があって、かかわらせていただいていますので、ぜひできる限り応援していきたいと、改めてきょう中間発表を聞いて思いました。

あと、このテーブルの中で、お互いに共感するところもあるので、何か一緒にできることがあるねという話ができただけでも、すごくよかったなと思います。それぞれに事業をやっていくだけではそういう機運はなかなか生まれません。先ほど治田さんから「中間発表の準備をするのは大変だっただろう」というコメントがありました。面倒くさいな、何でたった数カ月やったところで中間発表をやらなくちゃいけないんだと思われたかもしれないけれども、やっぱりあってよかったと思いました。

どうもありがとうございました。（拍手）

（事務局）山岡委員長、ありがとうございました。

では、坂井副委員長、お願いいたします。

（坂井副委員長）こちらではステップアップコースの3団体で議論いたしました。いずれの団体も、補助金を活用して精力的に活動に取り組んでいる様子がよくわかりました。コロナの影響についても限定的であったということで、むしろ外へ出る機会がなかったことが、イベントへの参加にとってプラスになった面もあったのかなというお話もいただきました。

それから、将来ビジョン、ステップアップということで、この先、補助金がなくなった後はどうしていくのかみたいなのが中心的なお話になりました。参加費はどうするのか、アンケート調査の中で参加費について聞いているかどうか。その辺をやっていく必要があるだろう。とはいえ、参加者はみんな安いほうを言うだろう。それを真に受けていいかどうかというところもある。そういった声をわかった上で、どう判断していくかというところはよく見極めながら、出口戦略を考えていく必要があるのかなと。

もう一つは、会費といいますか、会の仲間をふやしていく。この取り組みに理解をいただきながら、協賛していただける人をどんどんふやしていく。正会員にこだわらず、賛助

会員のような形をふやすとか、あるいはこの事業を企業さんとかいろいろなところ向けに発信して、助成金をいただくような工夫も、もっとやっていく必要があるのかなという話をいろいろいただいたところです。

それから、参加者のアンケート、きょう発表のときにはあまり示されていませんでしたが、皆さんそれぞれやられていました。ただ、1つは、そのアンケートの中身を工夫する必要があるだろうなということです。それを示すことで、これからの進む先をどうしていったらいいかという判断材料になるので、そこも大事にしたいというお話がありました。

それから、これは藤沢市向けのお話にもなるかもしれませんが、補助金という金額以外の面でこの事業、ミライカナエルサポートのメリットがあったのかという話も伺いましたところ、続々と出てまいりました。例えば伴走支援をいただいたこととか、講座に参加できたとか、広報ふじさわの威力は絶大だったというお話もありました。何よりも、ミライカナエルサポート事業の仲間の中で事業のコラボができたことも、この事業の1つの大きな成果だったのかなと思います。

ただ、多分「ミライカナエルサポート事業採択事業」と書くというルールになっているんですよね。それに合わせて「後援」と書けないかなという声がありましたので、一応ご紹介しておきます。

それから、出口戦略のところに関係しますが、とことこさんについてはさまざまなイベントを積極的にやられているので、その辺の参加費の工夫とか、新しい人をもっと開拓していく工夫、それが今後の課題であるということでした。

紙芝居 Project さんについては、当初の計画どおり集客もできて、着々と進められているのかなという印象がありました。今度は2回目の講座ですかね、そこでも着々と成果を上げていっていただきたいということと、参加費等の見直しも図って、出口のほうへ向かっていくことが課題になるのかなと。

Rankup さんに関しては、現状では補助金に依存する率が非常に高い事業になっているので、それが終わった後に続けられるのか。その辺は、ほかと共通しますが、仲間をふやしていくとか、いろいろやって、この事業の理解を進め、裾野を広げていくことによって収益も上げていきたいというお話でした。これからも地道な取り組みが必要になってくるのかなというところです。ありがとうございました。（拍手）

(事務局) 坂井副委員長、ありがとうございました。

皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。

スタート支援コース、ステップアップ支援コースの団体の皆様におかれましては、ここで、本日の中間報告会は終了となります。お疲れさまでした。

今週の12月1日には第1回相談会がございますので、団体の皆様はそちらへのご出席もよろしく願いいたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

委員の皆様は、これから休憩に入ります。再開は午後3時からとなりますので、それまでにお席にお戻りくださいますよう、お願いいたします。

それでは休憩といたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後2時45分 休憩

午後2時59分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## (2) 協働コース中間報告会

○事務局の平井部長より冒頭に挨拶が行われた。

(山岡委員長) それでは、会議を再開いたします。

ここからは協働コース中間報告会となります。協働コース中間報告会の進行について事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局より、進行及び委員自己紹介等について案内が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### ① 関内イノベーションイニシアティブ株式会社

(山岡委員長) それでは、中間報告に移ってまいります。

最初は、関内イノベーションイニシアティブ株式会社、協働相手・株式会社フジマニパブリッシングの皆さん、「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」についてご発表をお

願いいたします。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) では、発表させていただきます。

関内イノベーションイニシアティブの治田です。

(株式会社フジマニパブリッシング) フジマニパブリッシングの三浦でございます。よろしく願いいたします。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 事業の目的からお話ししたいと思います。

対象です。働き方に選択肢を持ちたいと考え、地域活動に関心がある幅広い年齢層の方を対象といたしました。

ネットワークづくりです。これに参加した方々が藤沢市内でさらに横のつながりをつくらせていただきたいと考えて設計をいたしました。

また、この事業自体は、ボランティア活動とか、コミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスとか、そういったこれまであまりそういうものにかかわらなかった人たちに関心を持っていただきたいと思って実施をしたものになります。

実施内容ですが、2つほどやっております。表題にありました「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」をやるだけではなく、ここに書かせていただいているのですが、地域起業とか、ソーシャルビジネスを進めていく上でのサポーターになっていただきたい地域金融機関の方々、産業支援機関、NPO支援機関の方にも参加をいただいた情報交換会を実施いたしました。

7月に実施したのですが、大変たくさんの方に来ていただきました。湘南信金さん、かながわ信金さん、横浜信金さん、横浜銀行さん、日本政策金融公庫さん、信用保証協会さん、湘南産業振興財団さん、市民活動推進機構さん、藤沢市の市民活動推進委員の方にもご参加をいただいた会になりました。

それを経て、受講生募集のための広報活動ということで、チラシを700部つくりまして、専用のウェブサイトをつくりました。湘南経済新聞への掲載とか、Yahoo ニュースでも配信されたり、動画による説明会も実施いたしまして、私と三浦さんが登壇する形で配信をいたしました。チラシにつきましては、フジマニパブリッシングさんのデザインの方をお願いをいたしまして、「湘南」というのがパッと見てわかるようなアイキャッチができたのではないかと考えております。

セミナーの実施は8月27日から11月19日、全7回、1回2時間半というなかなか長いコースではあったのですが、ご参加をいただきました。隔週土曜日ということで、事務

局も準備がなかなか大変ではあったのですけれども、滞りなく進められたかなというところ。会場はFプレイスを使わせていただきまして、非常に快適に授業をさせていただきました。

今回、私ども初挑戦で、参加費を 5000 円いただくことにいたしました。この 5000 円について適切かどうかということもまた後で議論させていただきたいと思うのですが、有料であったにもかかわらず、33 名の方にエントリーいただきました。実際に参加いただいたのは 30 名、修了されたのは 28 名ということで、離脱率がすごく低かった。満足度の高い講座になったのではないかと考えております。

1回目から7回目までのスケジュールをここに示させていただきました。内容としてはもともとご提案をしていたものからそれほど変えなかったのですけれども、藤沢市の概況について市の方にお話しいただいたり、初回には細沼さんにいらしていただきまして、湘南大庭を起点にした自治会・町内会などが、どういうふうに地域とかかわっているかというところを詳しくお話をいただきました。

実は参加者にも大庭地区に関係する人がたくさんおられました。今住んでいる人もいれば、昔住んでいた人もいたり、いつか住みたいと思っている人もいたりということで、そこでも非常に盛り上がりまして、それ以外の地域の方も、皆さんが非常に興味を持って聞いてくださったというのがよかったなと考えております。

その後、こちらの元委員長をされていた中島先生、Polaris の市川さん、そして先輩起業家として4名の方に出ていただきました。行政書士であり、湘南の不動産を扱う株式会社を運営していらっしゃる町田さん、クリーニングデイ・ジャパンの森下さん、シネコヤの竹中さん、さんわーくかぐやの藤田さんということで、分野も事業形態も違った方々にお話をいただいたということになります。

セミナーの様子ですが、こんな感じで、皆さんすごく明るい会場の中で、生き生きとお話をいただきまして、初回から物すごく盛り上がりまして。普通、皆さん緊張して、やりとりをしないのが、今まで私たちがやってきた講座なんですけれども、初回から会話が止まらないぐらいの感じでした。これはコロナ明けということもあったかとは思うのですけれども、皆さんこういう場を求めていらっしゃるんだなということと、あとは、20 代後半から 60 代後半まで、非常に幅広い年齢の人に参加いただいたというのもよかったのではないかと考えております。

受講生の属性ですが、男性 7 割、女性 3 割となっております。初回からすれば、女性の

割合が結構多かったかなと思っております。中心年代は 50 代ですが、それ以外にも若い人も参加いただいた。現在の職業としては会社員の方が多いですけれども、どちらかというと、その他というか、自営業をやっている方もおられましたし、これはなかなかおもしろかったかなと思っております。藤沢市以外の方からもご参加がありました。

アンケートについては、また時間があったらお伝えしたいと思うのですが、起業について学ぶ機会がなかなかないので、そういった具体的なお話があったからよかったよということが中心だったのと、あとは、先輩起業家からの話が非常にリアルに聞けた。ふだん起業家とやりとりすることはないですし、プロセスについてお話を聞くこともないのですけれども、起業家の覚悟のようなものについて触れられたことがよかったということと、自分が本当にビジネスプランが書けるのか心配だったけれども、先生方のお話からいろいろな意味で勇気が得られましたよということがお話としてありました。

ビジネスプランについて、これは全部皆さんからのものを挙げたのですが、ペットに関するものが非常に多かったということと、コミュニティに関心を持ったことによって、新たに自分のやりたいことを考えたという方もおられました。あと、木工玩具をご自身で、半年かけて1個のものをずっとつくっていたけれども、それをどのようにビジネスモデルにしたらいいのかというのを考えることができたし、いよいよ起業になったら、奥さんに話してみようみたいな、そんなお茶目な方もおられたかなという感じでした。

そのような感じで何とか終えまして、来週にはまた金融機関の方を集めた情報交換会を予定しておりますし、受講生コミュニティも、ご自身たちでLINEグループをつくるなどして始まってまいりますので、最終報告会ではそういったことも追加でお話ができたらかなと思っております。

では、パートナーの三浦さんのほうからも一言お願いします。

(株式会社フジマニパブリッシング) 今おっしゃっていただいたように、今回、非常によい場ができたと思っております。30 名の方たちが、皆さんそれぞれ立場は違えど、同じようなモチベーションで参加して横のつながりができたということです。

先ほどおっしゃっていただいたように、その後の打ち上げみたいなのも、我々が主導するまでもなく、受講者同士の中で「やろうぜ」という話になって、場所を押さえて、実際それを行った。こういう形のコミュニティができたということが、起業家はどうしても一人一人孤独になるものなんですけれども、同期がいるというところで、こけそうなときに、きっとそれで踏ん張れたりするのではないかというところが非常によかったな。



あと、広報宣伝の部分も、ある程度情報発信ができたので、ボランティアでお手伝いしたいですという方も出てきて、実際、受講生以外でも、人を巻き込めたかな。地域の方に対して訴求できたかなというところが、僕のほうは非常によかったなと思っております。

実際にここからビジネスがどう立ち上がるかところはまだ未知数なんですけれども、ある意味、自分はビジネスに向いてないから、これはもう生きがいとしてやっていこうということも一つの選択肢だと思っていて、そういったことが見える化されて、それぞれの方のチャレンジが今後具現化していく確かな一歩になったのではないかと考えております。

僕のほうからは以上です。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 藤沢のNPOなり、ソーシャルビジネスにかかわる人たちの一端が見えてきたのではないかと思います。この分野の事業はなかなか儲かることが目的ではないのですけれども、儲からなくてもやろうとか、地域のために何とか頑張ろうという人たちが、もっと声を上げていけるような形に、2年目も続けていけたらなと思っております。この機会をいただきましてありがとうございました。

以上でございます。(拍手)

(山岡委員長) ありがとうございました。

(団体入れ替え)

## ②特定非営利活動法人 湘南食育ラボ

(山岡委員長) 次は、特定非営利活動法人湘南食育ラボ、協働相手・特定非営利活動法人 laule'a の皆さんより、「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」について発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 湘南食育ラボの黒川です。

(特定非営利活動法人 laule'a) ラウレアの若林と申します。よろしく願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) まず、私たちの事業のゴールと目的について簡単に説明いたします。

私たちの事業のゴールは、障害によって嚙下の難しいお子さんにもそれぞれに合わせたハレの日の食事を提供すること、障害のあるお子さんの家族も一緒に楽しめるユニバーサルレストランを開催することです。1年目は既にそのような事業を行っているレストラン

への視察、試食会の実施、ケータリングでの食事提供を目標に活動を現在行っています。

まず、この事業には、私たちだけではなく、実際に障害によってお子さんの食事にさまざまな工夫をしている保護者の方に協力していただくことが必要不可欠と考え、お子さんをラウレアに通わせている保護者の中からご協力いただける方を募りました。その結果、4名の方がプロジェクトに加わってくれることになりました。その後、実際に障害のあるお子さんを育てている保護者の方は、どんな意見を持っているのかを調査するため、アンケートをとりました。84名の方にご協力いただきました。

アンケート結果や協力いただいた方について、若林さんに簡単にご説明いただきます。(特定非営利活動法人 laule' a) アンケートでどんなことが求められているのかということを確認いたしました。皆さん、ミキサーで一般の食事をペーストにすることはとにかく時間がかかるということです。外食の機会がなかなか持てない。

また、食べることに時間がかかるお子さんもとともいらっしゃいます。1時間近くかかっている。また、口からのお食事だけではなく、胃からお食事をとられる方もおられました。シリンジというものを使って注入するという形で食事をとられる方もいらっしゃいます。

あと、大型の車椅子に乗っているので、駐車場とか、レストランの中で移動がスムーズにできるのか。周りの目が気になるとか、そういったことを考えていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいました。

ゆったりした気持ちで、周りを気にせずに、家族で食事を楽しみたい。高齢者や赤ちゃんたちのやわらかいものとか離乳食だけではなくて、一般に子どもでも成人でもペースト食を食べている方とか、刻み食を食べている方がいるということを知っていただきたいというご意見が出てまいりました。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) アンケートと並行して、レストランへの視察も行いました。視察の様子については次のスライドでお話します。

そのアンケートの結果と視察をもとに、管理栄養士主導でメニューの考案を今行っているところです。

こちらがラウレアのスタッフの方と、協力してくださる保護者の方とそのお子さんも連れて、夏休みの期間だったので、一緒に視察に行ってくださいました。

その様子について、また若林さんに簡単にお話しいただきます。

(特定非営利活動法人 laule' a) 今ご協力いただいている4名の保護者のお子様のうち、お

二人が口からのペースト食を召し上がります。あとのお二人は胃からの注入の食事になります。

今回確認してきたポイントとして、カトラリーが十分にそろっているか。左上の写真の男の子は、口の飲み込みも、私たちのように簡単にはいかないもので、シリコン製のスプーンだと食べやすい。そういったものがそろっているのかどうか。あと、食器のふちが上がっていると、ペースト食がすくい上げやすい。また、予約するときに気持ちよく受けていただけるのかどうか。

さらに、周りを気にせずに食事ができるのか。先ほどもお伝えしましたが、大型の車椅子でもレストランの中を十分に移動できるのかといったような点を確認してまいりました。(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 食育ラボでは、理事長の原田とスタッフの鈴木と私で、新横浜にある Maison HANZOYA さんというレストランに視察に行きました。こちらは主に老人などに向けて、飲み込みやすいペースト食やムースの食事などを提供しているちょっと高級な感じのレストランだったんですけれども、写真のとおり店内は段差も少なく、テーブルとの間隔もあいていて、広かったので、車椅子でもすごく入っていきやすい店内でした。

味つけや食材はフレンチだったので、お子さん向けという感じではなかったです。ラウレアさんが見てきてくださったカフェとか食事のほうが参考になったかなとは思いますが、シェフの方に少しお話を聞いたところ、食事に対して悩みを持っているのは、老人の方だけではなくて、お子さんもいらっしゃるということで、共感もしていただけで、すごく勉強になりました。

同時に、このユニバーサルレストランで使用しようと思っている松下政経塾にも、保護者の方とのお子さんを実際に車椅子で連れてきていただいて、一緒に視察を行いました。車椅子でも通路を十分に通れるかとか、お手洗いの場所があるかというのを確認しました。普通のお手洗いはちょっと難しかったのですが、隣にスペースがあるので、そこでおむつがえをしたりということができるとかと思いました。

未達成の部分と現状の課題としては、試食会がまだ実施できていないので、これは来月、12月17日(土)に、先ほど写真でお見せした松下政経塾か、ラウレアさんのリノア辻堂の場所で試食会を行う予定です。SNSなどによる活動がまだ十分にはできていないので、それをこれから強化していこうと考えています。

今かかわってくれているのが、ラウレアさんに通所されている方の保護者とか、その関

連の方が多く、さらにもっと多くの方に知っていただくことが必要かなと考えております。協働パートナーとの相談も通して、広報活動にもさらに力を入れていきます。

先ほど話したように、試食会は12月17日に実施します。各団体以外の方へは、広報紙なども使って周知していこうと考えております。

最後に、若林さん、お願いします。

(特定非営利活動法人 laule' a) 12月にまず最初の第1回の試食会を行いまして、来年にはユニバーサルレストランを実際に数回実施できればと思っています。

常設まで行けるかどうかというのがちょっとわからないところではあるんですが、このような食形態のレストランが求められているということをしっかりとモデルケースとして整理して、藤沢市でこういうことをやったということがまとめられたらいいのかなと思っています。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 湘南食育ラボの辻と申します。

我々は未来に向けて日々活動させていただいているのですが、ペースト食のお弁当は今もやっています。ラウレアさんの子どもたちに対して、ペーストのミキサー度合いを変化させたものとか、刻み食とか、1つのメニューに対して10種類ぐらいのお弁当を毎日提供しています。

ただ、今回のミライカナエル活動サポートプロジェクトの目指すユニバーサルレストランでは、家族4人に同じような見ばえの食事を出して、1つだけムースとかペーストにする。ペーストとかムースを使ってハンバーグに似せたものをつくる。それがなかなか難しい。

管理栄養士は日々いろいろな食材を使ったり、ペーストにしたりということで、かなりの量の材料が必要です。材料も高騰しているのでなかなか大変なんですけれども、私もでき上がったペーストを夕飯にすることもたびたびあります。そういった中で、何とか未来に向けて子どもたちのためにこれが成功裏に終わればよいなと考えております。

今後ともよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。(拍手)

(山岡委員長) ありがとうございました。

(団体入れ替え)

### ③特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい

(山岡委員長) 次に、特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやいさん、協働相手・藤沢市地域共生社会推進室の皆さんより、「孤立状態にある人と共に生きるための畑作り」について発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい) 皆さん、こんにちは。認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいの大西連と申します。

きょう実は事業担当者が来る予定だったのですが、体調不良ということで、急遽、代打で発言させていただきますので、少し拙い発表のところもあるかもしれませんが、よろしくをお願いいたします。

あと、私がきょう事務所のパソコンから印刷してきた資料には写真がふんだんに入っているんですけども、皆さんのお手元に印刷されたところには、互換性の関係で画像が落ちてしまったみたいです。後ほどまたPDF等でお送りしますので、そこでご確認いただけたらと思います。活動の様子として、せっかく畑の活動なので、作物が実ったところとか、収穫しているところを撮影しておいたのですが、不手際があって申しわけなかったと思います。

早速発表させていただきたいと思います。

私たちもやいは都内に事務所がある団体でございます。東京を中心に生活困窮者の支援を行っている団体ですが、その中で貧困問題、生活困窮者の支援という文脈で、もちろん経済的な困窮の問題はすごく大きいのですが、生活が苦しい方の背景には、やはりつながりの貧困、孤独・孤立の問題、社会的な参加の機会、居場所がない、そういった問題があるということで、長年、20年以上取り組んでまいりました。

そこにコロナ禍というものが押し寄せてきて、我々は居場所づくりということで、事務所でコミュニティカフェを開いたり、コーヒーの焙煎だったり、いろいろな事業をやっていたわけですが、屋内でやる活動が非常にやりづらくなった。屋内の居場所でみんなでわいわいするとか、社会参加の機会をつくるということが非常に難しくなった。そういう中で、屋外でできるような社会参加の機会とか、一人一人の方の尊厳が守られて、当たり前のように笑顔になれるような活動ができないかなと考えていたときに、いろいろなお縁をいただいて、藤沢市の協働ということで畑の事業をさせていただいたという流れになります。

「孤立状態にある人と共に生きるための畑作り」ということで、2年目の発表という形

になるかと思います。

何をやっているかという、畑をやっております。簡潔に言うと、そうなんですけれども、ただの作業ではなくて、生活困窮とか、ひきこもりとか、精神疾患があったり、さまざまなバックグラウンドを持たれた方が、同じ土いじりをして、作物を育てて収穫をするということは、皆同じ平場で一緒にできる。コミュニケーションとりながら、ここの雑草を刈りましょうとか、いろいろな分担をしながら、一緒に活動ができる。そういった社会参加、居場所の活動として行っております。

具体的にここに3つ書いています。

まず、つながり直す場です。我々は都内にある団体ではあるのですが、地元の協働相手の皆さんをはじめ、地域の方たちも含めて、人間関係をつなぎ直す場として、畑というのが一つの大きな役割を満たせるのではないかということです。

また、藤沢市でも活動しておりますNPO法人の農スクールさんとの連携と、そこでの実績を含めて、農業の体験とか、さまざまな事業で、畑とかかわりたい人の受け皿というところです。

3つ目は、多世代・他地域間の交流の場をつくっていききたいということで、この事業を行っているところでございます。

それぞれについては後で紹介いたします。

写真が4枚並んでいたはずなんです、落ちてしまって申しわけないのですが、活動実績としましては、これまで延べ270名の方のうち、藤沢市からは67名の方にご参加いただいているところでございます。実は宿題としていただいていた地域の方がもっとかかわれるようにしていただきたいというところは、我々もまだまだ力不足のところはありますが、昨年と比べると、民生委員さんとか、社協さんとか、皆様のご協力で、藤沢の地域の方にご参加いただく機会を少しふやすことができたかなと思っております。

また、年代についても、これも後でお話をしますが、かなり幅広い方にご参加をいただいたところです。最年少は2歳から、70代までということで、77歳だか78歳だか、ご本人がごによごによ言うので正確な数字はわからなかったのですが、かなり幅広い年代の方が参加された。多世代の居場所とか、今さまざまな重層的支援体制整備事業とか、国の事業等でも言われていますが、そういったことが先駆的にできているというのは1つ言えるのかもしれないというふうにも思っております。

活動の実績というところで1つ目に書きましたが、実は事業開始当初からかかわってい

た 40 代のある男性の方は、ちょっと個人情報になるのであれですが、この事業をきっかけに、具体的な就農を目指したいということで、農水省がやっているいろいろなプログラムがあるんですけども、そこに参加をする。こういった畑の事業をきっかけに、実際に就農を目指して、今頑張られているというような成果があった。成果と言っていいかわからないですけども、そういったこともあるかなと思います。

2つ目は、収穫祭で、芋掘りとか、いろいろな形で地域の方が参加できるようにということをやっています。そこに、小さなお子様を連れてこられたお母様方が何組かいらっしやって、芋掘りが終わった後に、畑でピクニックみたいにお弁当を広げて食べて、それぞれかわりがなかった子育て中のお母さん方で自然と会話が生まれて、ちょっと仲よくなって帰って行って、また来週来てくれたらいいなみたいなことがありました。これまで当初想定していなかった地域の新しいニーズがあるのではないかとというところに今気づき始めているところでございます。次年度以降の活動の参考にさせていただきたいと思っております。

さらに、メンバーの変化というところで言うと、2年目ということもあって、1年目からかかわってくれていた方々が、どちらかというリーダー的なといいますか、先輩的な立ち位置になって、新たに参加してくれた方に対しても、お手伝いをしたり、サポートしてくれる。そういったかなり前向きなところ、ポジティブな変化があったかな。

あとは、いい意味で卒業して、就職とか、そういった形につながった方で、今ちょっとしんどい状況にある方が来られたときに、サポートといいますか、フォローに訪ねてくれたり、参加して下さったり、そういったことも起きているのかと思っております。

イベントに関しては、集客のところは、正直まだまだ課題がございます。実はここにイベントの写真があったのです。左下には参加してくれた2歳児の笑顔の写真があったはずなんですけど、めちゃめちゃフォトジェニックな2歳だったので、もちろんお母さんの許可を得てですけども、僕もパチパチ撮ってしまったのです。まだまだ課題のところはあったかなと思いますが、多年齢の方、さまざまな状況の方がいらしていただいたのかなと思います。こちらも地域の民生委員さんを含めて、周知・広報していただいた成果かなと思っております。

それから、日本農業新聞という業界紙にも、もやいの畑の活動を紹介していただきました。こちら写真も載せていたのですけども、写真を載せるのは著作権的にだめかもしれないので、ここは結果的によかったかもしれません。

また、非公式ですが、農水省さんのヒアリングも受けています。要は、障害分野においては、例えば半就労・半福祉とか、農福連携みたいなところは、今少しずつ政策も進んでいますけれども、生活困窮の分野での農業というのはあまりやっているところがないということで、そういった農水省のヒアリングを受けたということもあります。

課題と対応策ですが、実はここは昨年度いただいた内容とかなり類似しております。そこで、我々としてどういうアップデートがあるのかを含めて、ご報告ができたらと思います。

1つ目は、地域の他団体との連携という課題があると思います。民生委員さん、社協さん、また藤沢市さんを含めて、サポートしていただいております。一方で、まだまだもっともっと多くの方とつながりたいとも思っているところです。それに向けて、地域の農家さんたちとのつながりというのもすごく大事にしたいということで、畑を飛び出して、近隣の田んぼでの稲刈りをさせていただいたり、地域のお役に立てるような形で、少しずつ広がりをつくっていきたいと思っております。

また、イベントの周知については、広報のところで、公民館にチラシを置かせていただくなど、もう少しできることがあったかな。そこについては、下半期、きっちりやっていけたらいいかなと思っております。

また、今年度で農スクールさんとの連携が一旦終了するというところで、秋葉台に、これも新しいつながりの中で畑を貸していただけるという農家さんの方がいらっしゃって、直接そこをお借りして、より地域の方とつながっていきたいと思っております。

今後の話ですが、より持続的な活動ができるようにというところを、これからは目指していくというようなタームになっているかなと思います。サポーターをふやしていくというところと、より地域に根差した活動をしていきたいということ、今後の課題として考えているところでございます。

協働の話はお二人にお願いします。

(藤沢市：地域共生社会推進室) 藤沢市役所地域共生社会推進室の佐藤でございます。

もやいさんとこの1年半、協働させていただいて、私どもは周知・広報ということで、広報紙とか、チラシの配布だけではなくて、先ほど出た民生委員さんに直接投げかけたり、関係機関に照会したりという形でやっております。あと、私どもで相談機関もやっておりますので、実際の相談をされている方に紹介するという形でいろいろな取り組みをさせていただきました。藤沢の方が少しずつふえてきているということなので、少しはお役に立



てたかなというところでございます。(拍手)

(山岡委員長) ありがとうございます。

(団体入れ替え)

#### ④フジサワキカク

(山岡委員長) 最後に、フジサワキカクさん、協働相手・藤沢市広報シティプロモーション課の皆さんより、「#フジサワの高校生」について発表をお願いいたします。

(フジサワキカク) それでは、発表を始めさせていただきます。フジサワキカク代表の村田と申します。よろしくお願いいたします。

(藤沢市：広報シティプロモーション課) 協働相手の広報シティプロモーション課の吉澤です。よろしくお願いいたします。

(フジサワキカク) フジサワキカクと藤沢市広報シティプロモーション課が協働で実施しております「#フジサワの高校生」プロジェクトがことし2年目になりますが、本日は私、村田が代表して、中間報告の内容を説明させていただきます。

昨年度から引き続き2年目ということで、本日この事業の目的のスライドを挟んでおりませんので、まず口頭で説明させていただきます。

「#フジサワの高校生」プロジェクトというものは、一言で言いますと、藤沢の高校生に向けた市のプロモーション活動としてやっております。藤沢市はどのようなまちかなと考えたときに、青春コンテンツが多いとか、駅前に高校生が多いとか、高校生というものはこのまちにおける重要な宝とまでは言いませんが、大事な構成要素なのかな。

ただ、その一方で、まちとして、10代、中高生、特に高校生で、義務教育から外れている中、そういう高校生世代とまちとのつながりがないという問題意識を感じておりまして、広報シティプロモーション課も、僕らのフジサワキカクとしても、もっと藤沢を高校生と青春という2つのキーワードでブランディングしていきたいということで協働して実施しております。

大きく分けて5つの事業といたしますが、内容、コンテンツをつくっております。

まず、ブランディング事業です。ポスター広告を使って、「#フジサワの高校生」という物すごくイメージが大事なプロジェクトになりますので、そのイメージづくり、もしくは高校生に向けた認知を行う事業です。

もう一つは、SNS事業です。インスタグラムの運営とコンテンツ発信をしております。まちから何か高校生に発信したいと思ったときに、そのチャンネルがないというところが、僕たちが一番困惑した課題です。中高生世代で、今ツイッターとかもありますけれども、一番安定しているのと、アーカイブ性があるというところで、インスタグラムのアカウントを運営して、高校生とまちの接点になるようなものとしております。

次に、ラジオ事業です。地元の企業と一緒に何かつくるというものを1個考えたときに、コミュニティラジオ、レディオ湘南さんと協働して高校生向けの番組をつくる。「本当に高校生ってラジオ聞くの？」みたいなところから始まって、今2年目でラジオ番組をつくっております。

4つ目、イベント事業です。デジタルだけではなく、実際に参加するという体験が、コミュニケーションにおいて物すごく重要なので、そういうイベントをやっている事業です。これは2022年3月21日ですが、文脈としては、コロナ禍で高校生のステージが物すごくなくなりました。ただ、その一方で、青春を応援するまちとして何ができるかと考えたときに、それはシンプルに物すごくいいステージを用意したいというところからライブイベントを開催しています。来年もやります。

最後に、大人サポート事業です。こちらが一番大事な事業であり、一番困難視している事業であります。この事業は、2年間補助金を受けて活動しておりますが、最終的に僕らがつくりたいビジョンというものは、このまちで過ごしている大人たちが、高校生世代を応援し、支える。その応援を受けたい記憶をつくった高校生がまちに帰ってくる。そういう循環をつくりたいというもので、この活動の資金を集めるためのプロジェクト事業が大人サポート事業になります。

ここからは写真とか踏まえながら、ことし実際に何をやってきたか、活動報告ということで進めさせていただきます。

まず、ブランディング事業です。もともと計画としては、夏と冬、2回ポスターを打とうということだったのですが、その1発目です。「お〜い、夏」。本当は高校生をモデルに使う予定だったのですが、後ほど説明しますが、撮影予定の高校生がコロナにかかったということで、急遽、高校生が写っていないグラフィックになっております。

小田急電鉄さんがこのプロジェクトに協賛といいますか、手伝ってくださって、ここのコンコースを年間ずっと使わせてもらうという約束を交わしております。ここを使ってポスターを貼らせていただきました。実際にポスターモデルも募集して集まったのですが、

前日にコロナに感染して、高校生のモデルは使えなかったです。

実際のポスターは、計画としては1回1個ということで、ことしの冬2回目をやるので問題はないのですが、年間2回のポスター以外にも実際もっといろいろ使えるチャンスがあるので、もっとメディアを有効活用できないかなというのがブランディング事業の課題です。メディア提供者とどうやって使っていきますかみたいなのを今後話していきたいと思っています。

次に、SNS事業です。こちらもいろいろコンテンツをやっています。高校生から写真を集めて展示したり、あと、卒業生から、「高校時代ってこうだったよ」みたいな内容のポエムを集めてコンテンツにしている。あと、大きくは地元飲食店とコラボキャンペーンをやりました。高校生に向けて割り引き、差し入れみたいなことをやってくれないかというのをやっています。

具体的には、高校生から集めた写真を、コンコースにこういう感じで展示しました。高校生2人ですかね。

これは、実際、以前に参加してくれた高校生が大学生になって、改めて高校生を振り返ったときに、「今はこういうことを思っています」みたいなところで、卒業生から集めてポエムをつくったりしている。

あと、この写真は「古久家」です。2店舗、2回やったのですが、1店舗目は「古久家」で餃子がもらえるよみたいなキャンペーンをやっています。地元のお店を高校生に知ってもらいたいという意図です。

これは9月から今も募集しているのですが、高校生から集めた思い出を、写真ではなくて、それを実際にイラストにしてあげようというキャンペーンです。これはもう少し集めます。まだ2件ぐらいしか来てないです。

これはもともと藤沢市民まつりで出す予定だったのですが、藤沢市民まつりが例のごとく中止ということで、急遽、辻堂駅前で行われた某イベントにフォトブースを出展しました。これはことし広報シティプロモーション課と何かコラボしてやれないかということで、「フジきゅん」と最近高校生が好きな「映え」みたいなところでスペースをつくりました。ただ、実はこのスペースの制作を手伝ってくれたのは、去年のプロジェクトに参加してくれたことし美大に入った子です。ことし制作に卒業生を入れて少しずつ回していっています。

正直、SNSのリーチは物すごく十分なんです。やっぱりイベントとかで話を聞くと、

「あのポスターですね」とか、「前、高校が出てきましたね」という話をされます。実際、フォローにつながってないところが課題です。それはもう明確で、定期的に発信できるコンテンツを今保有できていないというのがかなり問題です。なので、12月からそういう定期的コンテンツをつくっていかうと思っています。

次に、ラジオです。これはひたすらラジオをやっているというものです。昨年度に引き続き、ことしはパーソナリティーを新しく採用したのと、構成作家を1人採用しています。去年の子たちは無事に大学生になったり、あとは受験で抜けたり、そういう感じになっています。

これは一番難しいのですが、実際に予算をかけているものに対してのパフォーマンスが低いということが課題かなと思います。ただ、一方、やはり地域らしいメディアなので、ここは諦めるのではなく、どうすればいいのかというのを考えていく。まず、アナログで、今はとにかくステッカーを配ろうかなと思っています。

次に、イベント事業です。後ほどお時間があれば、YouTube等で調べていただければと思うのですが、**THE POWER OF KOUKOUSEI 2022**のまとめ映像というのをつくっています。かなりいいクオリティーになっているので、ぜひごらんください。

おかげさまで、去年の協働者から、来年も協力するよというお話で、2023年も開催が決定しています。今デジタルだけで応募が5組ぐらい来ています。30人ぐらいですかね。

これは協賛集めが課題です。サポート事業はまだ全然進めていなくて、どうすれば募金システムをつくれるかというのを今やっています。ファンドレイザー資格の友人に相談しようかなと思っています。

重点課題です。広報シティプロモーション課と話したのですが、組織化と、あとは認知向上をもっともっとやっっていこうというのを共通認識として持っています。

こんな感じで今後も地道にやっていきます。以上です。（拍手）

（山岡委員長）ありがとうございました。

以上で協働コースの全団体の報告が終了いたしました。

ここで一旦、事務局にマイクをお返しいたします。

（事務局）団体の皆様、山岡委員長、ありがとうございました。

では、協働コーディネーターの手塚さん、コメントを頂戴できればと思います。

（協働コーディネーター）団体の皆様、発表ありがとうございました。審査委員の皆様、ご苦労さまでございます。

協働コーディネーターをしております手塚と、一緒に堀も在席しております、一応コメントを確認させていただいて、私から発表させていただきます。

1番目の取り組みの関内イノベーションイニシアティブとフジマニパブリッシングさんです。私どもの所属しております市民活動推進センターのほうへもお越しいたごいて、実はこの間終わったばかりの方ですが、1名ご相談にお見えになっています。とてもすてきなプランニングだったので、ご協力できるかなと思いました。

それからあと、満足度が非常に高かったというのは、やはり企画がフィットしたというか、皆さんの気持ちに沿ったということだと思いますので、そのあたりを、また知見を広げて、第2期生に向けてもぜひお願いをしたいなと思っております。

2件目の食育ラボさんとラウレアさんの事業ですが、「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」ということで、常設というのはなかなか難しいと思いますが、当初予定していなかったと思うのですが、松下政経塾さんと従前おつき合いがあつて、ご協力関係にあつたところで、とてもすてきな場所を新しくお貸しいただけるということを、皆さんの力で交渉が進んで、今とてもいい事業が進んでいるのではないかと思います。

お弁当も今実施している、その中の知見が、このレストランに向かつて、多分とても有効ではないかと思いますので、ぜひ両者協力をして進めていただきたい。常設は難しくても、1週間に一遍とか、1カ月に一遍とか、ご予約が入ったときだけでも、今は住宅地でもそういうレストランもふえていますし、そういう形態もよろしいのではないかと思います。

それから、広報についてご相談したいということですので、それはまた後ほどご相談を受けたいと思います。2年目に向けて頑張っていたらと思います。

3番目、もやいさんと藤沢市の協働事業ですが、こちらは毎月実施しておられます打ち合わせに私どもも参加をさせていただいております。行ったり来たりもするのですが、いろいろ農スクールさんとの関係もうまくスライドができています。進捗もかなりいい。ここは2年目ですが、3年目もやってくれるような雰囲気ですとずっとやっていたので、ぜひ藤沢市に定着する農福の連携事業にさせていただけるととてもうれしいなと思っております。

ただ、お互いの評価がオール3ということで、少し悲しい。もう少し点数がよくてもいいのではないかと思います。それは自主活動に向けて、多分課題が幾つもあるということで、そういう数字になっておられると思うのですが、そこを克服して、自主事業というこ

とで、藤沢に定着していただけると、とてもうれしく思います。

4番目、フジサワキカクさんと藤沢市の広報シティプロモーション課さんですが、こちらは私どもが打ち合わせに出ることがなかなかできなくて、途中の経過がほとんどわからなかったのですが、本日、ご報告を受けました。大人サポートの募金システムが少し難しいということが書いてありましたが、そこらあたりであれば、私どもでも少しご協力できる部分があるのではないかなとも思いましたので、また別途ご相談いただけたらと思いました。

同じくこちらは自己評価のところ、割と低い数字が並んでいたのも、どこかなと思って見たところ、特性を生かした取り組みというところがお互いに2の評価なんですね。ですから、パートナーの特性をそれぞれ理解していただき、あと少しの時間しかありませんけれども、そこを最後のラストスパートで理解を深めて、ぜひ最終評価をいいものにしていただけたらなと思いました。

とてもいい提案ですね。高校生のパフォーマンスを海岸でやっていたイベントに私も参加をさせていただきました。実はそこで書道をやっていた方は、その後もたしか藤沢市でもご活躍をして、YouTube 配信が出ましたよというご連絡をいただきました。ですから、とてもすてきなパフォーマーも、それからイベントも輩出しているということが実際にあるので、そのところをぜひ皆さんで理解しながら、これからも協働事業のパートナーとしては離れてしまっても、存在はするわけですから、フジサワの高校生を応援するというのを今後も続けていけたらいいなと思いました。

協働コーディネーターとしてほとんど何もできてないのですが、皆様の活躍を心から祈念しておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 手塚さん、ありがとうございました。今後とも団体のご支援をよろしくお願いいたします。

それでは、団体及び市民活動推進委員会委員の皆様による意見交換に移りたいと思います。

本日の趣旨は、きちんと事業の成果が出るように、達成できるようにするための意見交換でございますので、団体の皆様同士の意見交換もぜひよろしくお願いいたします。

お時間ですが、4時30分までを予定しております。協働コーディネーターの方にもそれぞれのテーブルに入っていただければと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 協働コース

### グループディスカッション

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(事務局) お話し中のところ、大変申しわけございません。そろそろお時間になりましたので、意見交換のお時間を終了させていただければと思います。

では、山岡委員長、坂井副委員長から、最後にご講評をいただければと思います。

初めに、山岡委員長、お願いいたします。

(山岡委員長) 私のほうのテーブルは、どちらも民間同士の協働で、なおかつ1年目というテーブルでした。いろいろ話が出て、それぞれの事業の中で課題とかは当然あるわけですが、やはり民間同士が協働するよさとか意義があるよねということが確認できたのがすごくよかったかなと思います。

お互いのことがわかっているから、いろいろなことができる。また、意思決定の速度が速いとか、当事者意識を持ちやすいといったことです。当たり前ですけども、頼まれてやっているわけではなくて、両方がやりたくてやっているの、そういう民間同士の協働のよさみたいなことがありますし、今回お話しいただいた2つの事業にはそれがあることが確認できました。

もう一グループは行政との協働ということなので、同じ協働でもまた性質が違ってくると思います。ミライカナエル活動サポート事業では、この民間同士の共同を新しいことのひとつとしてやってきています。民間同士の協働の意義とか価値を確認されたこちらの2つの団体さんには、まだあと1年4カ月ありますので、もちろん着実にちゃんと事業を進めていただくと同時に、そういう新しい取り組みの価値や成果を藤沢市の中に見出して、表に出していくこともぜひしていただきたいということを、こちらではお話ししました。

関内イノベーションイニシアチブさんの場合は、1期、2期のうちの1期が終わったところで、一区切りです。講座には細沼委員も出席していただいて、着実に成果が出ています。その受講生の中から、ミライカナエルのスタートアップコースにエントリーする方が出てきてくれるといいよねという話もしました。来年ここに受講された方がおられるかもしれないと思って楽しみにしております。

それから、食育ラボさんとラウレアさんのところは、1期、2期とかではなくて、2年

を通した中でやっていくということですが、試食会のめどが立ったところまで来ています。こちらの場合はお互いがそれぞれ持っているものが全く違いますから、力を合わせないといけないことをやっておられて、それで着実に試食会ができるというところのめどが立ったのは本当にすばらしいことだなと思いました。

情報発信が課題ということだったのですけれども、ちょうどこのテーブルの中で、お互いに「うちのメディアにも載せられますよ」とか、「ご相談いただければ、商工会の飲食部会に」というような形で、すぐに効果が上がりそうな協力もできそうということがわかったのは、すごくよかったです。挙げられている課題も少し解決に近づいたのではないかなと思います。

以上、こちらのテーブルの報告でした。（拍手）

（事務局）ありがとうございました。

では、坂井副委員長、よろしく願いいたします。

（坂井副委員長）こちらのテーブルは、両団体とも藤沢市との協働ということで、2団体とも2年目ということでした。

協働の場合は、特に行政との場合ですと、対等な立場とか、目的・目標を共有するとか、互いの持つ資源とか特性を生かして役割分担をするとか、そういう前提のもとでの意思疎通とか調整をよく図りながら進めていくことがとても大事になってくるわけですが、そのあたりはどうかなというところで、まずお話を伺いました。結論から言えば、そこは両方とも非常にきっちりうまくやっていたいております。

自立生活サポートセンター・もやいさんと地域共生社会推進室さん、これは藤沢市の福祉の部門ですが、畑づくりということなんですけれども、畑づくりというのは舞台であり、手段であって、そこでの孤立状態にある人とともに生きるための社会づくりである。そこできっちりと目的・目標を共有して、そのための手段として畑づくりをやっていくということで、協働関係は非常にうまくいっているのではないかなと思いました。

また、20代から70代までの幅広い年代の方が参加されているというのも非常にいい点であると思います。

また、地域社会共生推進室のほうの窓口で対応していた方が、畑の作業のほうに通うようになって、そこで非常に元気になって、今度、後から入ってきた若い方の面倒見もするようになっているということで、そこでのつながりということも生まれてきて、現場での非常にいい取り組みができてきているのかなと思いました。



それから、フジサワキカクさん、広報シティプロモーション課との協働で、このあたりは私も評点がやや低いのかなというふうにも感じまして、最初は私もよく存じ上げないで聞いていたのですけれども、要するに、広報という手段のところで目的というふうになって、そこで協働が始まったのかなみたいに私も勘ぐって思っていたのですが、よくよく話を聞いてみましたら、そういうことでは決してなくて、両方とも高校生という切り口ではありますけれども、藤沢市の魅力をきっちりと発信していくということで、しっかり目的・目標を共有して取り組んでいることがよくわかりました。

互いの持っているリソースが違うという部分があるのですけれども、そこでの評価というのも多少低めに出てはいましたが、むしろ逆に、それはお互いの期待値の高さの裏返しであるということで、真剣に協働している。両団体とも毎月1回打ち合わせをしながら進められていますので、協働関係はしっかり取り組まれているのかなと思いました。

それから、間もなく協働が終わるわけですね。補助金は終わるのですけれども、市との関係はどうなるのかなというところも聞きましたが、両団体ともいい関係を継続して、協力関係を維持したいというご希望だと思いました。

私としても、補助金の関係は終わるのですけれども、いつでも相談できたりするというようないい関係で、協力できることは協力するという関係は、協働事業終了後もぜひ維持していただきたいなと思った次第です。

それからあと、お金の問題です。協働が終わった後は、やはりお金がなくなるので、その辺どうかなというところなんですけど、まず、もやいさんの畑のほうは、新しい畑をこれから展開していくということで、そこにまた地域の方も参加していただいて、そういった方々へのご支援というのも図っていきたくと。

また、もやいという団体自体が、畑の事業だけやっているのではなくて、幅広く事業をされていますので、そういった団体全体の中でのサポートといいますか、事業も位置づけて、長くやっていきたいということでした。

それから、今20代までということなんですけれども、不登校の生徒さんなんかはどうなんだろうかねと言ったら、それも大歓迎であると。ですから、そういうことにもこれから事業が発展していける余地があるのかなと考えました。

それから、フジサワキカクさんのほうも、ようやくまちでの認知が進んで、ポスターの問い合わせが来たりしているということです。地元の経済界との関係も築きつつありますので、その辺を生かしながら、協働事業の補助金がなくなっても、地元の経済界等からの

支援ももらえるような関係づくりをこれからさらにしていくことで持続を図っていきたいと。

今、任意団体なんですけれども、ずっとやっていくのだったら、法人組織も考えてみたらどうかということも申し上げました。それは団体が判断されることなんですけれども、そういうことも検討してもよいのかなと私としては思いました。

以上です。（拍手）

（事務局）坂井副委員長、ありがとうございました。

皆様、長時間にわたり、大変お疲れさまでございました。以上で本日の中間報告会は終了となります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 閉会

（事務局）それでは、委員の皆様へ次回の委員会の日程につきましてご説明いたします。

次回の委員会は12月10日（土）午後1時からとなります。議題はミライカナエル活動サポート事業令和4年度協働コースの三次審査であるヒアリング審査となります。場所はこの会場、市役所本庁舎5階、5-1会議室を予定しております。詳細につきましては後日改めてご案内をさせていただきますので、ご確認くださいようお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車をお止めの方は、駐車券を事務局へお渡しください。認証機の処理をいたします。

事務局からは以上でございます。

（山岡委員長）長時間にわたりありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第8回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。

午後4時41分 閉会